

## 現地報告⑬ ラジオプロジェクト 2007 番組を聴く障害者の皆さん①

「VOICE OF HEART は知っています。ぜひ一度聴いてみたいのですが、この施設には共有のラジオがないんです。」という声が番組開始当初より多く聴かれた。我々としても、少しでも多くの障害者の方々にこの番組を聴いてほしい。そこで今回、施設と連絡をとり、その中で希望する施設に CMC 現地事務局よりラジオを寄付させていただいた。週に1回の放送時にそれぞれの施設で患者や訓練生の集まる共有スペースでラジオの準備をしてくださる担当者の方々に直接差し上げた。



左上：義足義手リハビリセンター-ICRC

右上：救急病院 EMERGENCY

右：職業訓練校 CVD



カンボジアの朝は早く、一般的に 7:00 頃から仕事が始まる。そのかわり昼休みが 3 時間ほどあり、皆日差しが強いこの時間帯は外へは出ず、食事や昼寝をしてゆっくりと過ごす。ラジオを聴く人も多く見られる。それを考慮した上でバタンバンのラジオ放送局の番組のオンエアは 11:00-12:00 としている。今回ラジオを寄付させていただいた団体でも、この時間帯は食事の時間と重なっており、障害者の皆さんは食事を取りながらラジオを聴いている。ラジオの寄付先の CVD と ICRC でその様子を拝見させていただいた。

## CVD



ポリオで体に障害を持った方が多く職業訓練を受けている。食事前、静かにラジオに耳を傾けていた。



## ICRC



左：ラジオが流される食堂に向かうお二方。  
上：食堂





上；VOICE OF HEART のポスター

右：毎週このようにして食堂で番組が流されている。



実際にその場にいた障害者の方々のうち、2人の方に番組の感想を伺った。



ノウン・バライさん（26歳、写真右）

この番組は僕のような地雷被害者にとってとても励みになります。事故にあってからずっと落ち込んで何事に対してもやる気が起きなかったのですが、この番組を聴きだしてから、頑張っって働いて楽しい人生を送りたい、と思えるようになりました。障害者でも頑張っている人はたくさんいるんですね。それは番組を聴いてわかりました。また聴きたいです。



ユアン・チャンさん（51歳、写真左）

この番組は私にとって、そして障害者の皆さんにとって最高の番組ですね。番組を聴く前、私は障害者が普通に働くことなんて到底できないと思っていました。そして障害と切り離せないこの先の人生に希望を見出せないでいました。そのせいかいつも心が退屈で怒りっぽかったですね。でも聴いてから心持ちがだいぶ明るくなりました。とにかくやる気が出てきました。ありがとう。

---

僕自身、オンエア時はラジオ局のスタジオにいることが多いが、こうしてスタジオを出てみると、そこには実際に番組を聴いている人がおり、番組を楽しみにしてくれている人がいる。今回それを直接確認でき、嬉しく思った。